

天平

列中の影が長く伸び
波紋が広がる
私は目を閉じ
揺られるがまま

仏像の気魄が扉を開き
襲いかかる視線
満ち満ちた空白
全ては玉砂利の隙間に

滅亡によって生まれ出たものは
洗い流された虚飾
大気との一体化
そして・・・影

私は目を閉じる
抱かれんがため
そっと
抱かれんがため

(1987.4.9)